

平成 26 年 5 月 9 日

科研費データを活用した研究力把握に関する勉強会について

大学評価コンソーシアム

1. はじめに

我が国の大学の評価部署では、一般に説明責任のための点検評価書の作成業務やそれに付随する業務のウエイトが大きく、評価作業で得られた大学の現状に関する情報を、なかなか大学経営や改善に活かさないでいることが多い。また、点検評価書を作成するとしても、数量データを積み上げて何かを主張する、というよりは、「書くべきこと」「書かなくてはならないこと」は先に決まっており、何かを書くために数量データを見たり、探したりすることが大半である。

このような背景もあり、我が国の大学では、学生調査等から教学マネジメントの支援をするような取組は進んでいるものの、いわゆる教学以外の一般的なマネジメントにおいては、数量データを活用した意思決定支援があまり進んでいない状況にあると考えられる。

このような中で IR 業務が注目されるようになって久しい。IR 業務とは、簡単に言えば、大学執行部や学部執行部、各現場などでの意思決定への支援である。つまり、必要な時に、必要な方に、必要な情報を提供できるかどうか、ということが問われる業務であり米国では専門職の IR 担当者が IR オフィスでこれらの任に当たっている。一方、我が国では、専門職を配置したような IR オフィスはほとんどない。IR オフィスと業務内容が比較的近い評価部署に於いても専任教員を配している大学は少数で、大半の大学では異動を伴う事務系職員が評価業務や IR 業務を担っている。そこで、我々は、異動を伴う事務系職員で構成される評価部署 (IR オフィス) であっても、一定程度の高度な IR 業務を継続的に実施できるようにすることを目的として、学内の課題ごとにデータ整理や集計手順の整理 (メソッドのライブラリ化および大学数量化ツールの開発) に着手した。今後、大学における意思決定支援機能の強化を目指し、順次、これらの大学数量化ツールの拡大と高度化を図っていくことを計画している。

その第一弾として、国立情報学研究所が文部科学省、日本学術振興会と協力して作成・公開している科研費のデータを用いて、研究力を把握し意思決定支援を図る手法を開発 (試作) した。これは、研究マネジメント支援の専門職の配置や商用の分析ツールを導入することが困難な大学においても、研究分野の意思決定支援の高度化へ向けた取組を後押しできるものと考えている。そこで、勉強会を開催し、出席者のみなさんとこれらの手法を磨き上げていきたい。

2. 日時・会場

平成 26 年 6 月 6 日 (金) 13:00~16:30

神戸大学 六甲台キャンパス 百年記念館 講義室 A

(神戸市灘区六甲台 1-1)

<http://www.kobe-u.ac.jp/guid/access/rokkodai-dai2.html> の 57

3. 想定する対象者

- ・事務系職員の方で数量データを集計、分析し大学の意思決定を支援するような業務に就かれて

いたり、今後、それを行う予定の方。もちろん、ご所属が評価部署や IR 部署でなくともかまいません（研究協力系の方などで、ご興味がありそうな方にも適宜お伝えください）。

・単に手法を知りたい、という方ではなく（手法と必要なデータは後日公開します）、研究力の把握を通していろいろと考えてみたい方。

・特に今回は、科研費について一般的な知識があることを条件としますが、研究支援事務の担当経験の有無は問いません。（科研費の募集要項の内容はなんとなく把握しているレベルで十分です。勉強会中、科研費に関する一般的な説明はあまりしません。知識について不安な場合、科学研究費補助金の公募要領等をご一読の上、ご参加ください。）

・MS-Excel2007 以上 が扱えるパソコンを持参いただける方で、かつ、MS-Excel について、一般的な関数やグラフ作成が行えることが望ましい（ある程度はスタッフが支援します）。

4. 参加費

徴収しません。

5. 募集人員

20 名程度（希望者が多い場合には、各大学 1 名ずつに絞っていただくなどの人数調整を行う場合があります。）

6. 勉強会の内容とタイムテーブル

12:30 受付開始

13:00-13:05 趣旨説明

13:05-13:30 講義「IR 業務を意識した研究情報の取扱いについて（仮題）」

名古屋大学 評価企画室 講師 藤井都百

—中井・鳥居・藤井編著「IR の Q&A」の内容を中心に、IR 業務を意識した研究情報の取扱いについて基本的な部分について概説します。

13:30-13:50 説明「科研費データの特性と活用可能性」

茨城大学 評価室 助教 畷田 敏行

—今回用いる科研費データの作成方法と特性や分析事例について説明を行います。

14:00-15:20 実習「科研費データを用いた研究力把握」

鳥取大学 大学評価室 准教授 大野 賢一

—2006 年度から 2013 年度の全国の国公立大学の実際の科研費データを用いて自身の大学の研究力把握の作業をいくつかのステップに分けて行います。

お持ち帰りいただく（作成していただく）ことを予定しているグラフ等

・基盤研究や若手研究など種目別や金額別の科研費配分額の経年変化

・特色ある分野（グラフ）、分科（表）[総量、順位、シェア等]

15:30-16:15 演習「他大学との比較による研究力把握」

・研究の規模別にグループを組んでもらいます。各班にはスタッフが 1 名、ファシリテータとし

て入ります。そこでは、同じグループの大学の方と実際にデータの比較をしていただき、自大学の研究力をより深く把握してもらいます。(30分)

・その後、グループごとに何を議論したのか、何が分かったのか、今後の課題等について簡単に報告していただきます。(15分)

16:15-16:20 まとめ

16:20-16:30 アンケート記入

7. 持参いただくもの

- ・ノートパソコン(MS-Excel2007以上が扱えるもの)[インターネットへのアクセス(無線LAN)は神戸大学さんにご準備いただけます。電源についても人数分は確保できる見込みです。]
- ・講演資料および実習に用いるデータ(6月4日の昼までにはダウンロード出来るようにします。)

8. 申し込み方法

- ・大学評価コンソーシアムのwebサイトの会員専用ページからお申し込みください。
- ・申し込みは、平成26年5月14日(水)13時から開始します。

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/>

・締め切りは6月2日(月)12時を予定していますが、所定の人数に達した場合、それより早く締め切ります。

9. スタッフ

寫田敏行(茨城大)、淺野昭人(立命館大)、淺野茂(NIAD-UE)、大野賢一(鳥取大)、関隆宏(新潟大)、土橋慶章(神戸大)、難波輝吉(名城大)、藤井都百(名古屋大)、藤原将人(立命館大)

10. 成果物の取扱い

・この勉強会の模様や議論の結果は、当コンソーシアムのwebサイト等に公表しますので、あらかじめご承知おきください。

11. 謝辞等

会場を提供していただく神戸大学様には、御礼申し上げます。

また、この勉強会の実施の一部には、平成24年度科学研究費補助金(学術研究助成基金助成金(基盤研究(C)))「IRマインドを涵養する評価人材の育成プログラムの構築に関する研究」(課題番号:24530988、研究代表者:寫田敏行)を用いました。

